

DOJIN
R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

魔胎 都市



「このような場所に足を踏み入れるのは、気が進みませんが……」
大量の粘液と濃厚な淫気が溜まりきった、見るからに淫猥な狭路への入り口。
近づいただけで淫気の影響で身体が火照り、官能が疼きだすのがわかってしまう。

(……な、なんと濃厚な淫気なのでしよう。地表ですらこの有様……ならば、この内部に入ってしまったら、一体どうなるか……)
歴戦の退魔師すら戦慄を禁じ得ない——いや、淫魔との戦いでその美体を開発されきった彼女だからこそ理解できるその恐ろしさ。
この先に待ち構えるのは、咲耶のすべてを知り尽くした淫魔が仕掛けた狡猾極まる淫民。それがいかなるものなのか、想像するだけでも心が惑い、肉が淫らに震えてしまう——
「っ……ですが……これはわたしの使命。このわたしが退くわけには参りません！」
だが、円城咲耶の決意は、その程度では揺るがなかった。

あたかも獲物を呑み込めんとする魔物の口さながらの縦穴に、艶めかしく光沢を放つブーツのつま先を滑らかに滑りこませる。
「にちゃああっ」と粘っこい蜜音が湧き立ち、濃厚な白濁が下半身に絡みつく。
(っ……なんとおぞましい感触でしょう。でも、彼を捕らえるためには、この先に進むしかありません！)
淫らな尻とわかりながらも、最強の退魔師は自ら淫獄へとその身体を躍らせる。
此度滅ぼすべき淫魔——かつては同じ退魔組織で戦った、そして咲耶へ抱く淫らな想いから自ら魔へと身を落とした男が、この先にいるのだから。



(や、やはり……この淫気、強力すぎます。こんな濃厚なものを吸わされては……か、身体が疼き、止められませんか……！)

通路の内部は、咲耶の予想を上回るほどの淫獄だった。狭隘な通路には濃厚極まる淫気が充満し、例え呼吸を止めていても心身を蝕まれる。床にも壁にも天井にもみっちり詰められた白濁液は回避することなど出来るはずもなく、歩くたびに全身へと刷り込まれた。

夥しい粘濁にまみれ、濃厚極まる淫気に蝕まれながら進むこと数十分。暗闇の中、ようやく出口の明かりが見えた——その、瞬間。

「はうっ……う、あ、ああ……ああ！」

どろおっ……どぶ、どぶっどぶどぶどぶ！

一際濃厚な、そして大量な白濁液が、上下左右すべての壁から噴出した。なんとか通路から抜けだそうというところで、心の隙を狙った狡猾な不意打ち。大量の粘液が、発情ボディに容赦なく塗りたくられる。

そしてそれは、咲耶の熟れたきつた媚肉を、否応なく肉欲の坩堝へと引きずり込むのだ。

「はあ、はあ、はあ……ふああ、くうっ！

あ、熱い……身体が……くふあ、あああっ！」

人間一人が辛うじて通れるほどの狭路だ。発情しきつた肉体を慰めることなど出来るはずもなく、咲耶はただただ悶々と肉の疼きに悶えながら進むしかない。

(この通路……ま、まだ続くのですか？ど、どれだけ進めば、出口に……？)



「ひっ、ダ、ダメです……うっ！　こ、こんなにいっぱい……き、効きすぎる……う！」

すでに蕩けきっていた肉体が、更に加速度的に燃え上がる。欲情液を取り払おうと乳房に手をやるも、震える指先は濡肌の上をヌルヌルと滑るだけ。白濁まみれのコスチュームがぬるんっ、とずれ、桜色に上気した乳肌と、痛ましく勃起しきった乳首が露出する。

（あ、ああっ……こんな。わたしの身体……こ、こんなに発情しきって……）
恥知らずなほど快従順すぎる自らの肉体反応に、思わず忸怩する気高き退魔師。そんな彼女の前に、おぞましき異形が姿を見せる。

「ふふ、どうだった咲耶……君のために用意した粘液トンネルは？　咲耶はああいうの大好きだろ、楽しんでもらえたかな？」

「！　あ、あなたは……！」
未だ発情し続ける体を抑え、乱れた衣服をなんとか繕いながら、咲耶はそれに相対した。

「……醜い姿ですね。自ら魔に堕ちることを選ぶとは……なんと、愚かな……！」
「それもこれも君を僕のモノにするためさ。見てよこの触手……咲耶はこういう、気持ち悪くて野太い触手が大好きだったよねえ？」
粘液まみれの触手をうねうねと蠢かせ、人間だった頃と同じ下劣な声で語る。

「咲耶は、この淫魔を知っていた。
いや、正確には、このような姿に成り果てる前の、人間だった頃の彼を、だが。」

「情愛に溺れ、人であることすら辞めた元退魔組織研究員……。一度は同じ組織で手を取り合ったよしみです。この円城咲耶が、せめて、この手で浄化して差し上げます！」

「ははは！　僕と過ごした日々を覚えてくれてたんだ、嬉しいよ咲耶！　嬉しくて嬉しくて……ひひ、もう射精しちやいそうだ！」

女退魔師の抱く複雑な感情など、理解できるはずもない。
組織に在籍していた頃から咲耶の美しさと肉体に執心し、その地位を活かしストーカー紛いの行為まで行っていた偏執狂——その歪んだ想いに任せ、彼はその身を淫魔と化してまで、咲耶を手中に収めんと

しているのだ。

穢れた夢の成就を眼前にし、淫魔は心底嬉しそうに触手を蠢かしていた。

「ああ、咲耶、咲耶、僕の咲耶ア！　僕は咲耶のことならなんでも知ってるんだ……最強の退魔師と言っても、一度発情してしまったら最後、君の開発済みの淫乱ボディはろくに力を発揮できないってね！」

「……！」
「そんな君のためだけに調合した媚薬粘液を、たっぷり塗りと塗り込められて、今の君はどうしようもないぐらい欲情しきってる。僕の精液も混ぜてあったんだけど、その様子じゃたっぷり楽しんでもらえたみたいだね、ふふ！」

「なっ……だ、誰が……っく、おぞましい！」
あまりにもおぞましすぎる言葉に絶句しながら、咲耶は肌に塗り込められた粘液を拭おうとした。だが生乾きの粘液はべっとり肌と肌を染み付いており、擦れば確かにきつい精臭がむわっと匂い立って鼻腔を擦った。

「ううっ、こ、こんな……。貴方の精液なんて……うあ、き、汚らしい……！」

「ふふ、そういいながら興奮した表情をしてるじゃないか。くふふ……そんなエッチに発情した身体で、僕の呪力が満ちたこの空間でまともに戦えるかなあ？」

「……だ、黙りなさい！　わたしは負けません！　この程度の罫など、問題ではありません！」

清浄な霊力が、この空間に満ちた呪わしい淫気に侵食されていくのがわかる。

だが咲耶は退くことなく、キツと臍を引き締め怨敵を睨みつけた。

「くふふういいいねえ、本当はもうギリギリなのにその強気な態度！　それでこそ僕の大好きな咲耶だあ……さあ、いくよお！」

「くっ……！」
欲望に任せて荒れ狂う無数の触手が、獲物めがけて振り下ろされる。もう抑えきれないほどに欲情しきってしまった肉体を引きずり、最強の退魔師は、最悪の相手と相対する——

咲耶のスーツが使えない状況で清華からスーツを
借りて任務に臨む咲耶。
この後無茶苦茶淫魔に陵辱された。





くっ
この程度の淫気に
やられはしません！

ほらほら
いくよおー？

始めようか
咲耶あ
この時をどれほど
待ち侘びたか…

いけない…
身体が思うよう
に動かない！

あっ!?
し、しまっ…!?

強がる姿も
素敵だねえ
でも…
ほうら動きが
鈍いよお？

それえっ!!

グッ
グッ
グッ
グッ

ははっ！
あの最強退魔師が
なんて不様だ！

うあっ

だめっ…
力が、全然込め
られない……！

チャアッ

ポッ

さて…
それじゃあそろそろ
味わわせてもらおう
かなあ〜！

な、何を……

ビュッ

うう〜んいい尻だあ
でかくて柔らかく
てたまらないよお！

カッ

バァ

ブルッ

ど、どこを触っているのですか…

離さない!

ググ…

もっともっと
味わわせてもら
よ、僕の咲耶ア!

う……
あ、ああっ!

やだね!

こんなエロい身体
をしている咲耶が
悪いんだよ!!

ズ
グ
ン
ツ

グ
グ

ズ
グ
グ

いやっ!

引っ張らないで
ください!

これが夢に
まで見た咲耶
のおっぱいかあ

すごいね!
とんでもなく
エロい触感だ!

グ
ニ
ユ
ウ

はあはあ、もつとだ…
もつと咲耶のエロエロ
ボディをべろべろし
たいよお!

ズブズブ

うあっ

いいや!
こんな格好……

う、動いてる…
わたしの胸、食べ
られています…!

グホ…

だめ…
このままでは飲み
込まれてしまいます

くっ

は、早く…
抜け出さないと…!

ググ

ジュルルッ

そんなつれない
こと言わないでよ

ほら、乳首
イジメられるの
好きでしょ?

ふあああ!

ち、乳首は…
ダメえ!

ググ

ググ

へえー
まだそんなに
頑張れるんだ

ググ

ドボボ

ば、馬鹿に
しないで…

ヌチヤアア

流石最強の
退魔師は
すごいね〜!

グチョッ

うああっ!

咲耶ももう我慢
できないでしょ?

そろそろ
本気で犯して
あげるね!

ズズ

な、何を言っ
ているのです!?

わ、わたしはそんな…

グググ…

咲耶の大好きな
丸呑み体内陵辱へ…
ごあんなーい!

ズズ

うわっ

ドグッ…



ブツッ

ブツッ
ブツッ
ブツッ

ブツ

ブツ

ブツ

ブツ

ぐったりしちゃって
もう抵抗する気も
ないんですよ?

カユナ...

ドロ...

ブツ

ブツ

ボクは咲耶の
事ならなんでも
知ってるからね.....

最強の退魔師も
こうなったら
おしまいだねえ

これからボクの触手で
何度もイカせてあげる
からねえ♡

ふ、ふぎけないで
ください！
誰が貴方
なんかに……！

やっ、
む、胸は……！

ブルッ

ギッ

ッ

ホルン

ブル

ッ

ギョッ

はいはい
強がるふりは
そこまです
いいよお

知ってるよ
咲耶は胸が
一番弱いつて……
ふふふ

ズズ

ブル

アロ

ブル

うーんいいねえ
このいやらしい
肉付き……
開発されきった
淫乱なおっぱい……

ッ



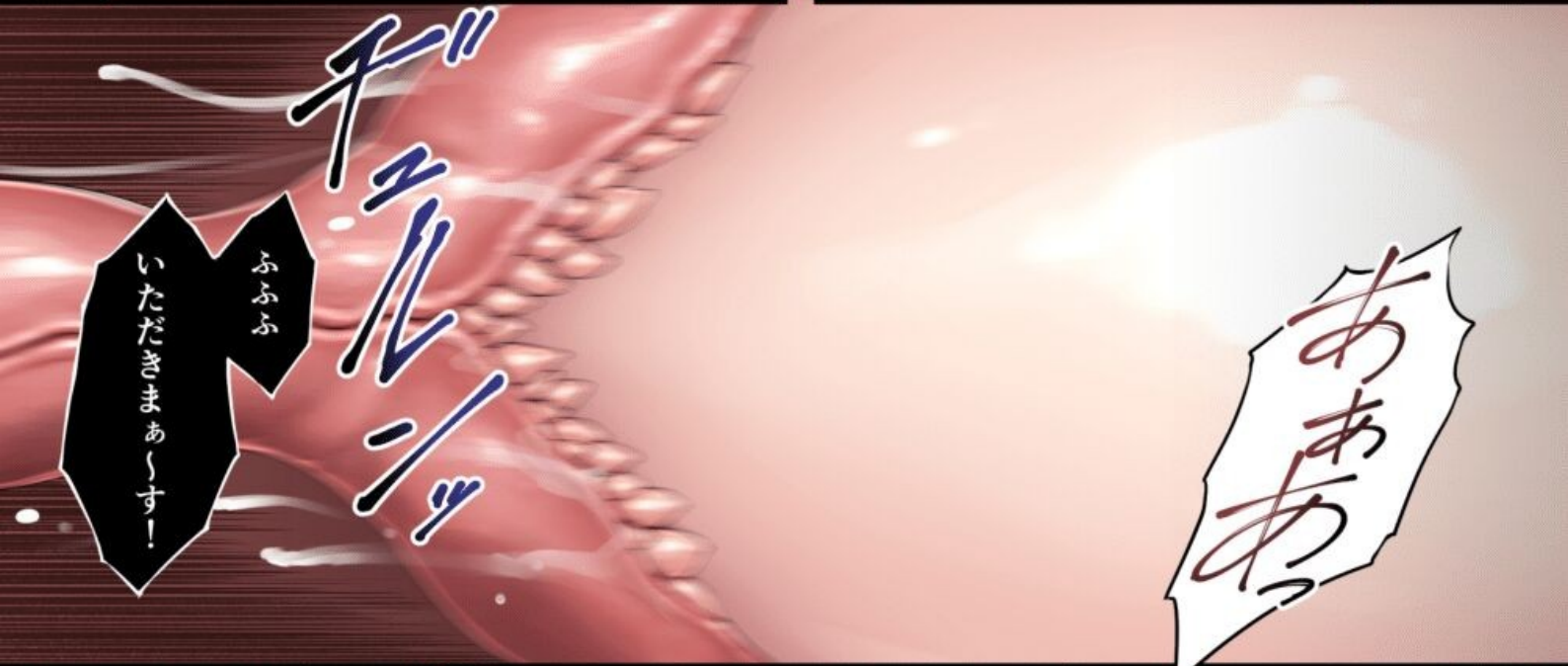
ケーレンして
おねだりしてるとよ
咲耶の淫乱乳首♡

乳首は…
乳首はだめ……



大きくて
柔らかくて
その上敏感で…

本当に
犯されるために
あるような乳肉だ



あああ

ふふふ
いただきますあーす！



あひゅ
ギェリッ

こ、こんなの
続けられたら…
ダメです…
わたし
もう、もう……！



はあ

おっぱい揉まれ
ながら乳首
コリコリって…
す、すご……！

はあ



ネオッ
子口…

うああ…
し、しこか
れる…



ひ、イ、イクッッ！
乳首でイクッッ！

おっばいだけで
イカされて
しまいますぅー！

ジュルル

ジュクッ

はあ

はー

ドクッ

イル

はー

グッ

グッ

キョッ

あ

くうっ…
そ、そんな

言わないで
ください…

でもさあ
まだまだ本番は
これからだよ

咲耶はすぐ
イっちゃって満足
かもしれないけど
ボクはまだイって
ないんだから

可愛い
イキっぷり
だったよ♡

おっぱいだけで
イっちゃうなんて
本当淫乱だね
咲耶は…

ヌロオオオ

今度はボクも
気持ちよく
させてよ…

このヌレヌレの
淫乱すぎる
イキマンコでさあ！

まずは解して
あげるねえ
ほくらプニプニ

や、やめてください！
い、今イったばかり
なのにい…

ニムル

クニ
グニ
グニ

ハア

ハア

クニ

クニ

オ

む、胸も
一緒になんて…
ああっ!

ああ〜
咲耶の感じる
表情だけで
イっちゃういそ
うだよ…

う、あああ…
さ、逆らえない…
触手っ、入って
きちやいます…

いくよお咲耶!

そ、そろそろ
我慢の限界だあ…



ほらあつ
奥まで一気に
行くからねえ…

ああつ！
そんな奥までえ！

ググ…

ズ
ズ
ツ

ほら、ほらほら
ほらあ！

ズ
ツ

||

す、すご…
太くて
長いいっ!

だめええ!
こんなの
おおお!

ほらあ
お尻にも入れ
てあげるよお

ブ
グ
グ

あああ!!

ブ
グ
グ

ブ
グ
グ

両方一緒に
イカせてあげるよ
僕の咲耶あ!!

ア
ッ

んんん
流石に開発
されてるねえ

すごい締め付けだ…
自分から腰振って
そんなに僕の
触手ちんぽが
気持ちいいんだ？

まるでマンコだ…
ほらあ、どんどん
入ってくよ

だ、だめ…
お尻だめえ！
前も後ろも
一緒なんてえ!!

ち、違っ
こんなの気持ち
よくなんっ…

んはあああ!!
あひいいいっ!!

さあ、そろそろ
お待ちかね…
両方一緒に奥の奥に
注いであげるよお!

ゆ、許して…
今出され
ちゃったらあ…

アッ
アッ

パッ

ズッ
ズッ

アッ

パッ
ズッ

ズッ

ブル

ブル

ほらっ
出すよ！

全部受け止める
んだ咲耶！
僕の愛で
イってしまえ！

そい、いやっ！
そんなのいや…

ひあぁっ

グググ

グボ

ピク

はあ

は

ズッ

ズッ

良かったよ
咲耶…

やっぱり君は
最高だ……

ハ

オ…

さて…
まだまだ終わら
ないよ

せっかく憧れの
咲耶と一緒に
なれたんだ……

夜は長いよ？

たっぷりと
イキ狂わせて
僕の事しか考え
られなくして
あげるからね……♡

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ♡



またしてもギリギリ作業になってしまった竜胆です。
今回はお買い上げいただきありがとうございます。
フルカラー漫画で触手で粘液ということでえらく時間がかかりました……
というか魔胎都市でようやく漫画かけました！やってることは変わりませんがw
導入の負けません！からの1P目で捕まる咲耶さんです(´ω`)

次はそろそろ姫丸に出番あげればなーと思っております。

次回もよろしくお願ひします！

竜胆@清華のガレージキット楽しみ

■奥付■

魔胎都市 五

2016年 5月1日 初版発行

○発行

Radical Dream

HP URL <http://www.rindou.sakura.ne.jp>

twitter : rindou2902

E-mail rindou@rindou.sakura.ne.jp

○著者

イラスト：竜胆

文：黒井弘騎

○印刷会社

株式会社サングループ

●18歳未満の購入。閲覧を禁止いたします。

●無断複製および無断転載を禁じます。





Radical Dream